

# 年収150万円 で暮らす法

吉田 清彦

娯楽教養費といっても、その九九％は本代と新聞代と「書」という風に変わって占められている。(ただしサークル活動にかかわる費用は別立てにしてある) いたって無趣味というのか、今では目の前に活字さえあれば、ほかには何もいらないというほどのリッパな活字中毒人間だが、これでも中学・高校時代は、新聞配達のアルバイトで稼いだお金のすべてを切手の購入につき込むほどの「人並みの切手鬼(しゅゑ)集

わが家の娯楽教養費は月額にして二万円ほどである。他の人と比べて多いのか少ないのか、ちよっと見当がつかない。

## 新刊書は文庫本優先で

ところで、普通の人の娯楽教養費には、映画、演劇、コンサートなどの鑑賞代や英会話スクールなど各種習い事の費用、あるいはテニス、ゴルフ、釣りなど趣味に関するものや旅行の代金など、多岐にわたる項目が数え上げられるのだろうが、私の場合はまことに簡単、

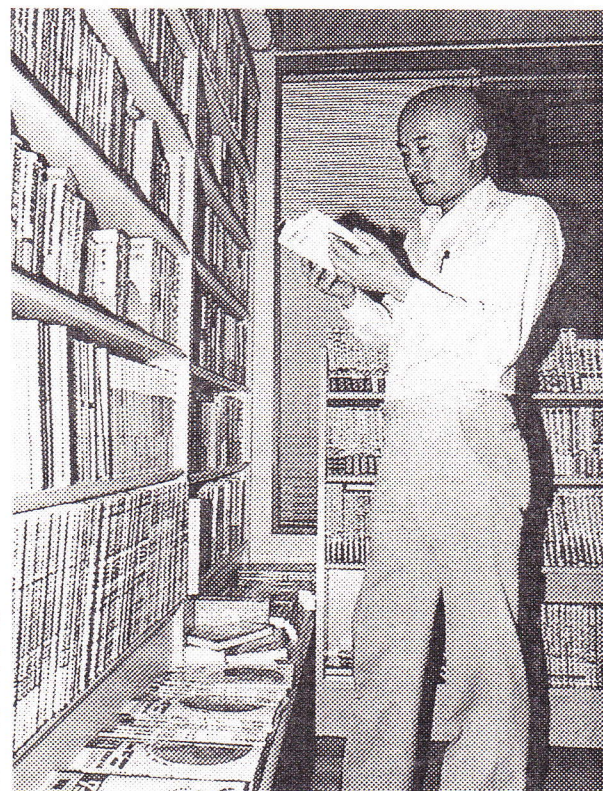
映画だって、中学時代は東映の時代劇、高校時代は日活の青春物を結構よく見たものである。ところが、大学に入ってからしばらくたってふと気がつく、「趣味はサークル

## 娯楽費は本と新聞

活字中毒者の常として、

自分で手に入れた本や資料は、それぞれに愛着があり、一冊といえども捨て難い。かくして、部屋の中を本が占領していくことになる。この三十年間の「戦果」として、現在、私の部屋には十本の本棚に二千冊ほどの本が収められ、それ以外にも、押し入れや戸棚にも千冊近くが積み上げられていて、すでに収容の限界を超えている。

というふうなこともあてにならない。昔と違って今は、二年も待てば、ほとんどの単行本は文庫本になるので、落合恵子、富岡多恵子、阿刀田高、清水義範、藤沢周平などのお気に入りの作家の本は二年遅れの文庫本をせっせと集めている。ところが、女性問題など、私がかかわっているサークル運動に関連する、いわゆるマイナー系の本は、発行部数が少ないせいか、定価



ふだん買い物をしないストレスがこうじて、年数回、本の衝動買いをしてしまう  
(神戸市難区の書店)

というふうなこともあてにならない。昔と違って今は、二年も待てば、ほとんどの単行本は文庫本になるので、落合恵子、富岡多恵子、阿刀田高、清水義範、藤沢周平などのお気に入りの作家の本は二年遅れの文庫本をせっせと集めている。ところが、女性問題など、私がかかわっているサークル運動に関連する、いわゆるマイナー系の本は、発行部数が少ないせいか、定価一カ月になると四五千円ほど

(フリーライター)

▽毎週日曜日に掲載しま